

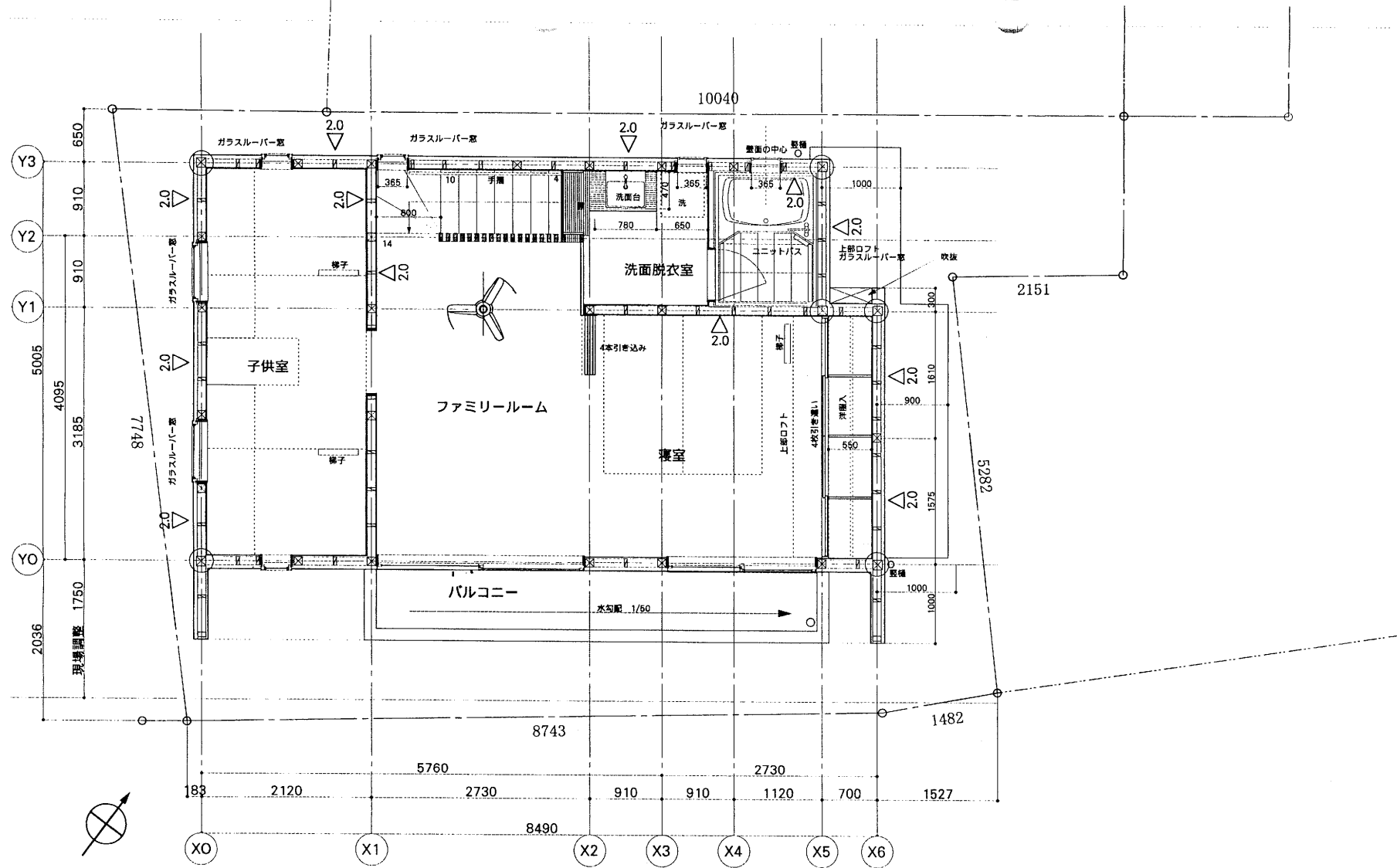
特記なきは下記を原則とする

記号	部位/名称	凡例	材
	土台		105×105
	大引		90×90
	火打土台		45×90
	根太		45×55 @303
▽5.0	軸組重5.0倍		構造用合板(9)両面貼
▽2.0	軸組重2.0倍		90×45 シングル
▽4.0	軸組重4.0倍		90×45 ダブル
▽4.2	軸組重4.5倍		90×45 シングル 構造用合板(9)両面貼
○	通り柱		120×120
□	管柱		105×105
	桁梁等		105×120
	母屋		105×105
•	アンカーボルト		
▨	根太レス合板		合板 (24)

通り柱・すみ柱12cm角を確認
 ※この図面では○の付いた柱はすみ柱に該当しているので、すみ柱12cm角もクリア。
 ※2階平面図でも確認が必要

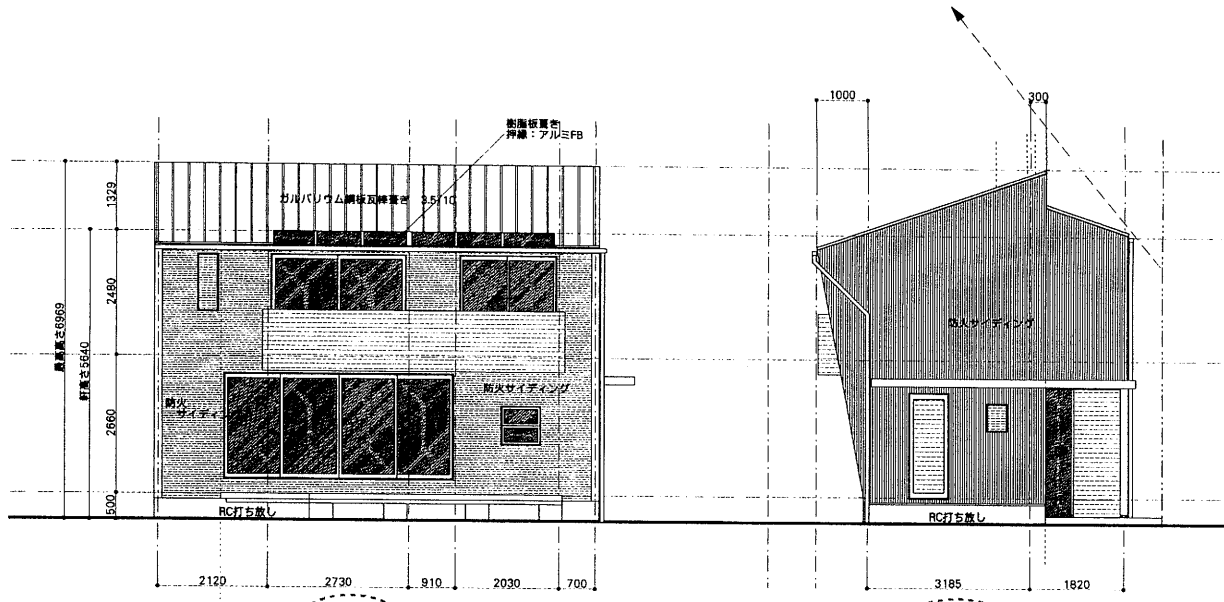
筋かい及び柱頭柱脚の接合金物は建設省告示1460号の規定に基づく事

凡例
 □ 柱: 120×120



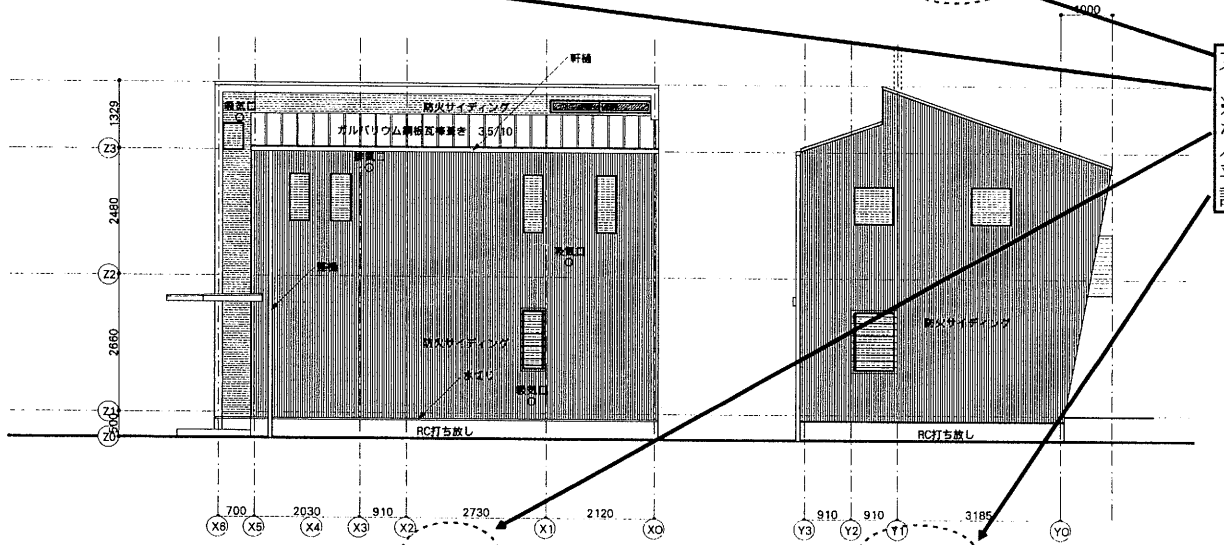
凡例
 (○) 柱: 120×120

○○○○○○○○○設計 〒○○○-○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○登録 第○○○○○号 □ 一般建築士 (大臣第○○○○○号)	○●邸新築工事設計図	
	2階平面図	
	1:50	



南立面図

東立面図

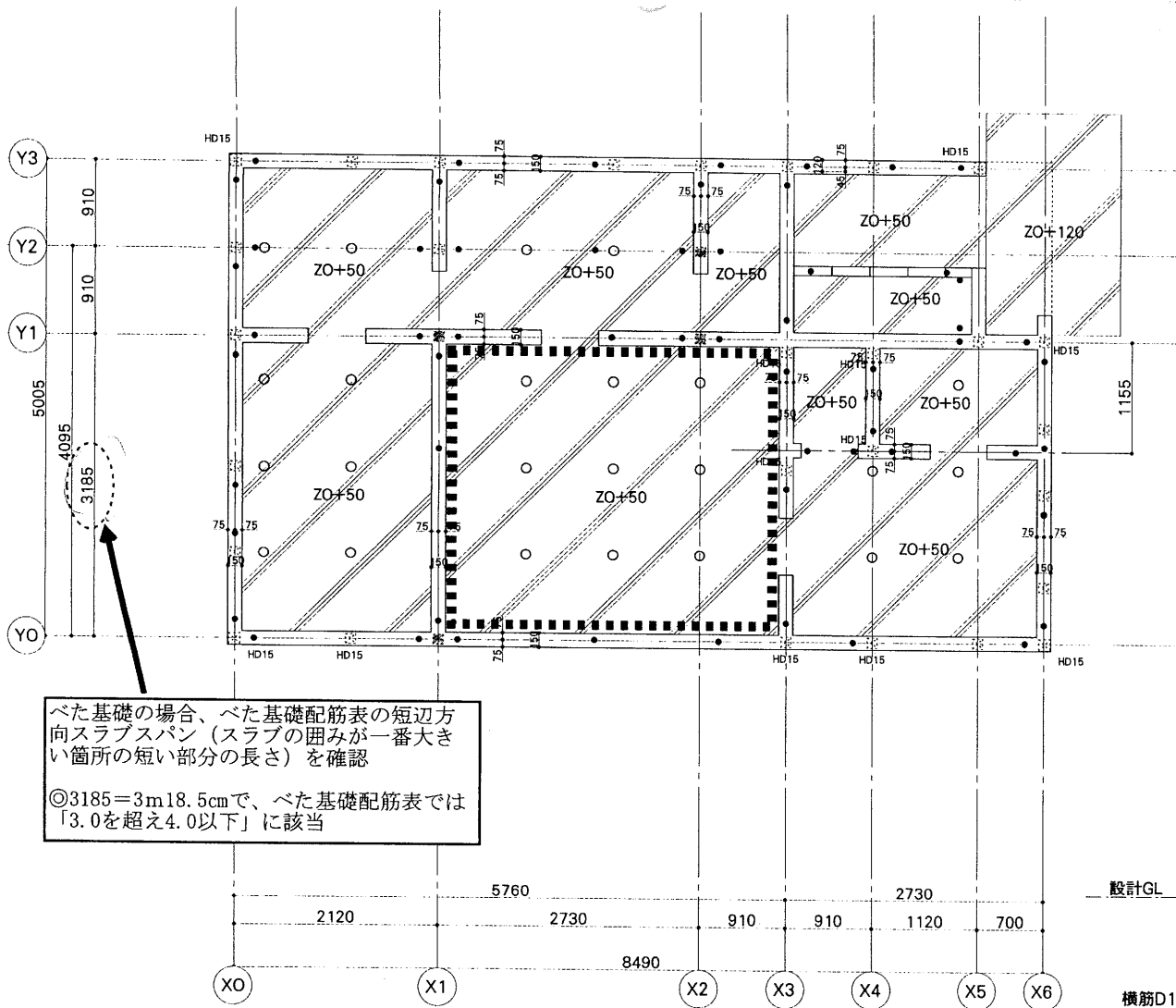


北立面図

西立面図

東西南北4面を確認
 ※まれに方角と図が一致しない場合あり
 バルコニーの位置を参考に
 平面図と照らして方位を確認

○○○○○○○○○設計 〒○○○-○○○ ○○○○ ○○○○○○○○-○○○○-○○○○ ○○○○登録 第○○○○○号 一級建築士 (大臣第○○○○○○号)	○○邸新築工事設計図	
	立面図 (4面)	1:100



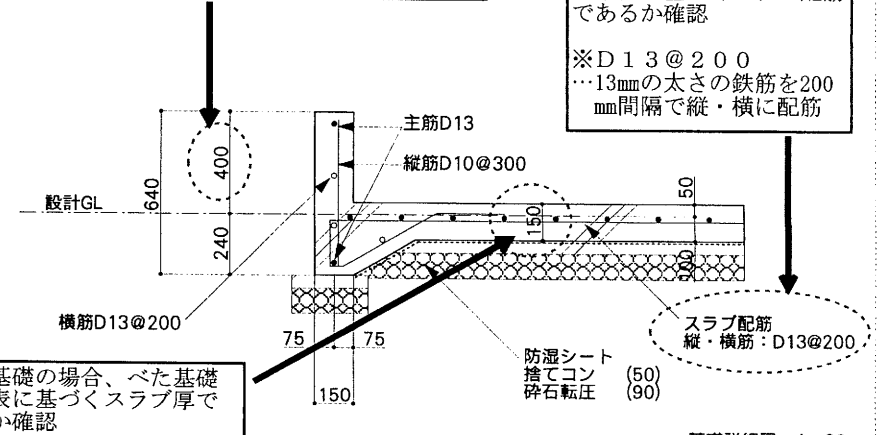
N値計算再検討

(X0,Y0)
A1=4
B1=0.8
A2=0
B2=0
L2=1.0
 $N=4 \times 0.8 + 0 - 1.0 = 2.2 \rightarrow$ (と) HD-15
(X6,Y1)
A1=4.5
B1=0.8
A2=0
B2=0
L2=1.0
 $N=4.5 \times 0.8 + 0 - 1.0 = 2.6 \rightarrow$ (と) HD-15

べた基礎の場合、べた基礎配筋表の短辺方向スラブスパン（スラブの囲みが一番大きい箇所の短い部分の長さ）を確認
◎3185=3m18.5cmで、べた基礎配筋表では「3.0を超え4.0以下」に該当

基礎の立ち上がり地表面から40cmあるか確認

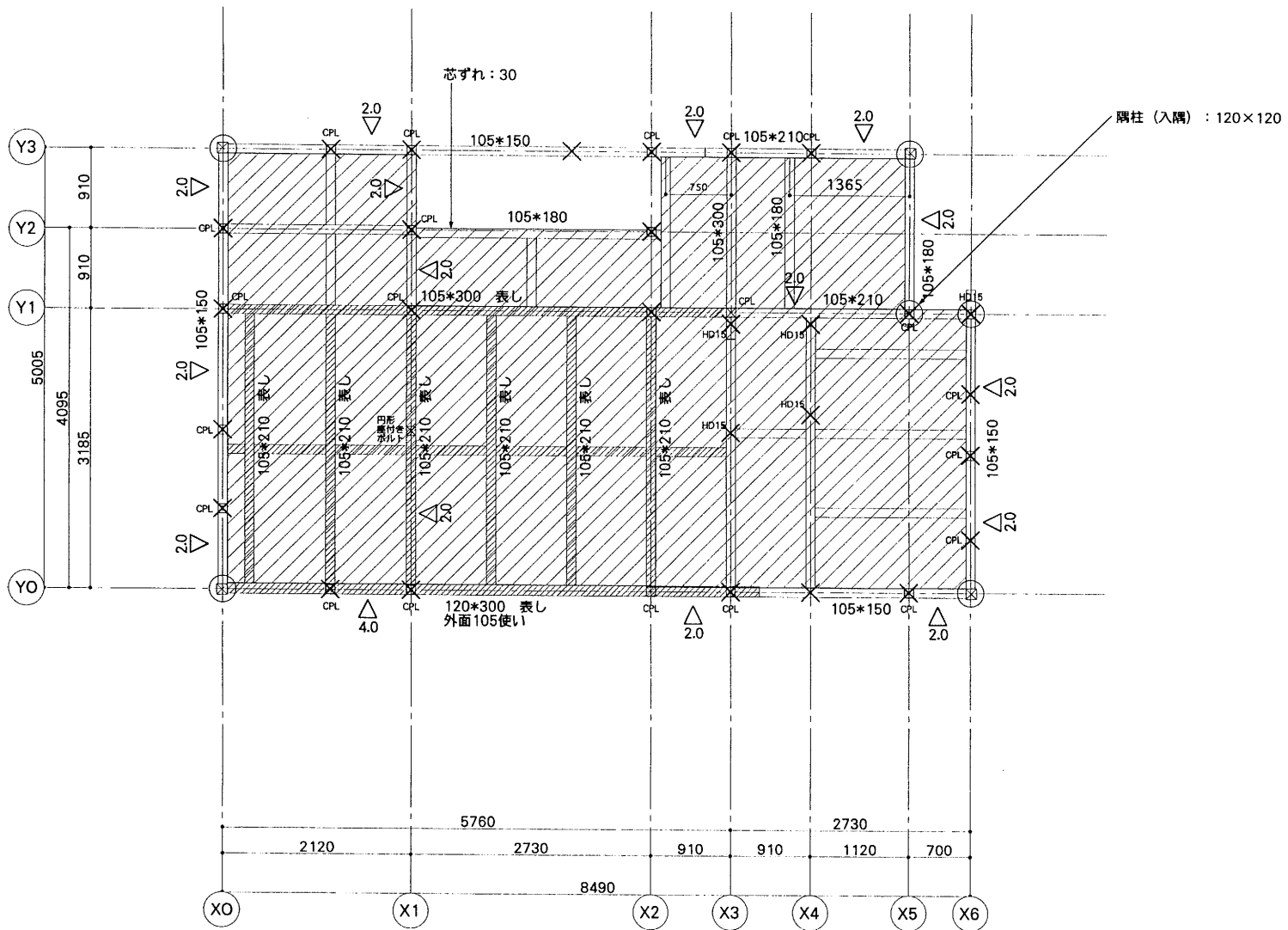
べた基礎の場合、べた基礎配筋表に基づくスラブ配筋であるか確認
※D13@200
…13mmの大きさの鉄筋を200mm間隔で縦・横に配筋



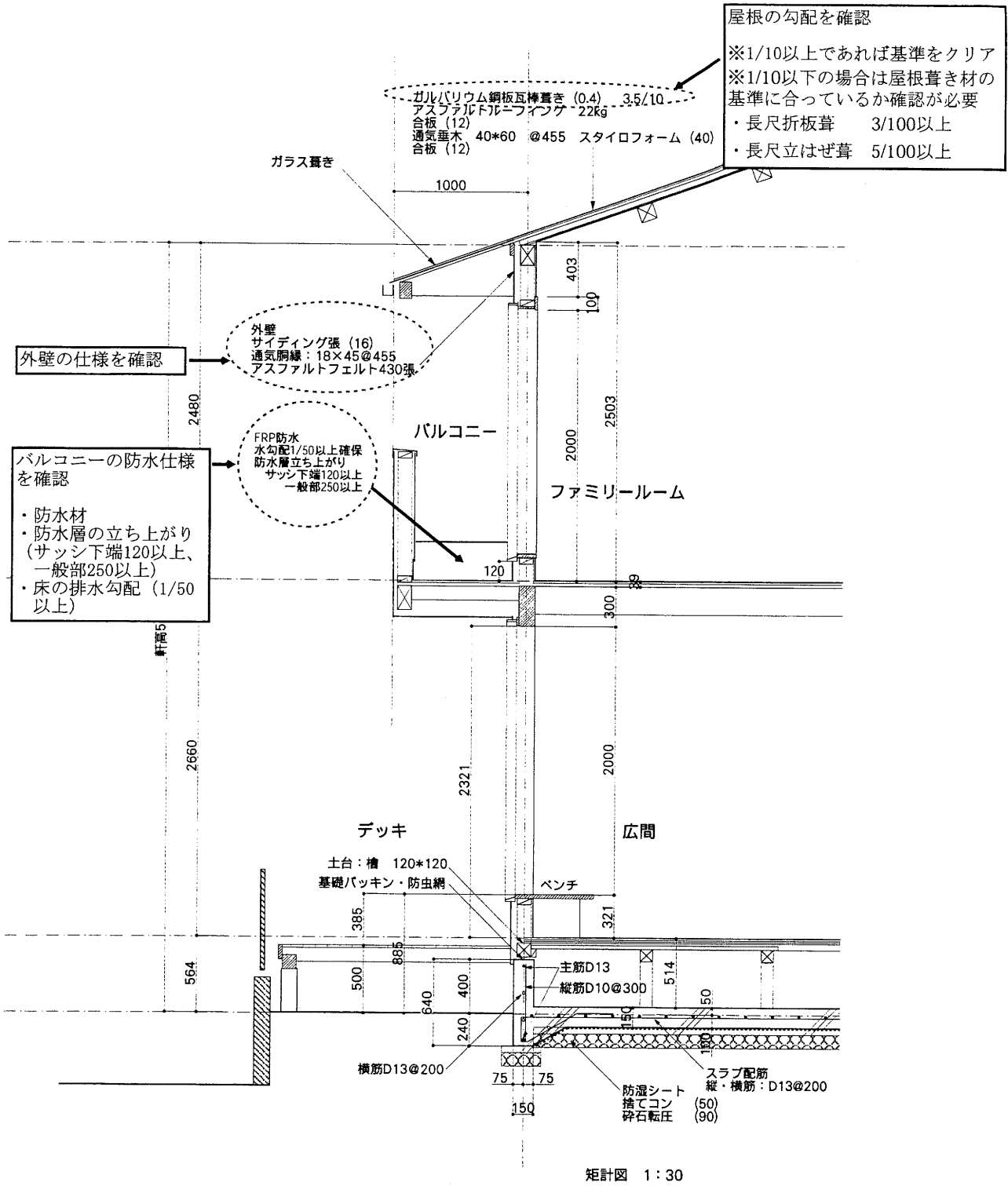
べた基礎の場合、べた基礎配筋表に基づくスラブ厚であるか確認

基礎詳細図 1:20

○○○○○○○○○○設計		○○○新築工事設計図	
〒○○○-○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○-○○○-○○○		基礎伏せ図	1:50
○○○○登録 第○○○○号 □ 一級建築士(大臣第○○○○○○号)			



○○○○○○○○○○設計		○○○邸新築工事設計図	
〒○○○-○○○ ○○○○○○		2階床伏図	1:50
○○○○○登録 第○○○○○号			



○○○○○○○○○○設計		○○邸新築工事設計図	
〒○○○-○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○-○○○○-○○○○		矩計図	1:30
○○○○登録 第○○○○○号 □ 一般建築士 (大臣第○○○○○○○号)			